

8月29日火山灰の水溶性付着成分について

29日の火山灰に付着する塩化物イオン、硫酸イオンはそれぞれ 1860~2630 mg/kg、49000~55800 mg/kg で、それ以前の火山灰に較べて塩化物イオンが1桁多い。Cl/S比は18日までの火山灰が 0.01~0.05 であったが、29日火山灰は 0.1 以上と大きく、18日までの火山灰とは大きく異なる。

29日火山灰の付着量、成分比は、18日の噴火でマグマと火口底を結ぶガス通路が確立され、マグマからのガスが直接地表に到達するようになったことを反映し HCl も地下で除去されにくくなっている。このことは SO₂ 放出量からも支持される。しかし、ガス流路が確立されたといっても、硫酸イオンの付着量が多いことからまだ完全に地下の熱水系（地下水系）が消滅するほどではないと思われる。ただし、29日の噴火で流路がさらに確立されていることは考えられる。

